

第4回 産業分野の気象情報利用のためのワークショップ 議事概要

日時：平成28年12月14日（水）14：00～16：00

場所：気象庁 講堂（東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁2階）

1. 開会挨拶

気象庁長官 橋田 俊彦

2. 気象情報の利活用環境の充実について

気象庁総務部長 加賀 至

3. パネルディスカッション

<パネリスト>

農研機構農業環境変動研究センター上級研究員 大野 宏之

(株)ライフビジネスウェザー取締役 常盤 勝美

東京大学大気海洋研究所副所長・気象振興協議会会長 木本 昌秀

気象庁地球環境・海洋部気候情報課予報官 竹川 元章

<モデレーター>

気象庁地球環境・海洋部気候情報課長 眞鍋 輝子

(話題提供)

季節予報、特に2週間先までの予測情報の改善にむけて 気象庁

気温予測活用の取り組み (株)ワコール※

農研機構における2週間先までの予測情報の活用の現状紹介 農研機構

弊社の取組と中期予報への期待 (株)ライフビジネスウェザー

4. 閉会挨拶

(一財)気象業務支援センター理事長 羽鳥 光彦

※ (株)ワコール は当日欠席。活用の取り組みについては代読にて紹介。

ー パネルディスカッション概要 ー

気象庁では、気象情報の産業への利用拡大を目指す取り組みの一環として、現在、異常天候早期警戒情報として提供している2週間先までの予測情報の改善を検討している。現在既に情報を活用していただいている方々をお招きしたパネルディスカッションを行い、検討案についてご意見を伺うとともに、将来的な気候情報全般の内容・提供方法等の方向性についてコメントをいただいた。

検討中の気温の予測情報案については、2週間先までを対象として、利用しやすいように工夫された画期的なサービスであるとの評価を頂いた。週間天気予報とその先2週間先までの予報が一続きの情報として提供されること、毎日発表されること、農業等に重要な最高・最低気温の予測が出される点などが高く評価されるとともに、気象予測データの農作物生育予測への利用促進、民間気象事業のマーケット拡大などにつながるの期待が寄せられた。新たな情報の適切・有効な利用方法に関して、週間天気予報期間（日ごとの値）とそれ以降（5日平均値）で、データの質が異なる情報が一続きの情報として見られることに懸念が示された一方、こうした情報の適切な利用に関する支援などは民間気象事業者の活躍の場でもあるとの意見をいただいた。

また、今回、2週間先までの気温予測情報について検討段階で利用者に情報共有されたことが評価された。今後もこうした事前の情報提供や、気象庁と気象情報の（ビジネスでの）利用者との継続的な対話の重要性が認識された。

気象庁からできるだけ多くのデータ及び情報が利用しやすい形で公開・提供されることや、新たに公開・提供が予定されるデータ及び情報に試用期間を設けることなどで、新たな形でのデータの利用や民間気象事業のサービスの拡充につながる可能性が指摘され、「気象ビジネスの創出」への期待が示された。